

(1) 「確かな学力」の育成に向けて

重点目標

学びを深める教育実践（下京中学校版：アクティブ・ラーニング）を通じたキャリア教育の推進

具体的な取組

- 学びを深める教育実践（下京中学校版：アクティブ・ラーニング）の推進
  - ・教職員全体への理解を深めるための研修会の実施
  - ・他校の先進的な実践から学ぶ教職員の指導力の向上への取組
  - ・各教科の“本質的な問い”の一覧表をもとにした、教科を横断した資質・能力の育成
  - ・機能的な教科会を実施し、“問い”や“対話”に重点をおいた思考ツールを活用した授業の実践
  - ・パフォーマンス課題・評価の活用を研修し、学びの深まりの判断（評価）について研究の推進
- キャリア教育を基盤とした教科授業の改善と学力分析
  - ・教科等の年間指導評価計画に基づく実践と毎時間の学習目標の明示と評価の徹底
  - ・授業研究，研究報告会に向けた組織的な研究実践による授業力の向上
  - ・小中連携による学力分析と対策の共有化と課題への迅速な対応
  - ・主体的に学びに向かう力や自己を管理する能力を育成するための「きらめき手帳」の活用支援計画
  - ・キャリア教育の視点により、一貫性のある学習と生活の指導
- LD等支援が必要な生徒の学力向上
  - ・通級教室による学習支援と「学充（テスト前学充・土曜学充）の時間」の充実
  - ・個別の指導計画の教職員における共有化と生徒一人一人の学習の躓きの把握と丁寧な対応
  - ・ICT（タブレット）の効果的な活用
- 言語活動と探究的な活動の充実
  - ・教科等における言語活動の充実と図書館（マルチメディアルーム）の積極的な活用
  - ・総合的な学習の時間，特別活動における言語活動の充実
  - ・活動におけるねらいの明確化とキャリア形成を促す行事の精選と充実
  - ・ICT（書画カメラ，タブレット，電子黒板など）の効果的な活用
  - ・マルチメディアルームをイングリッシュ・ヴィレッジとして開放や，ALT や英語教育支援員を活用した英語教育の推進
- 外部刺激による研究・実践の充実
  - ・大学教授を講師に招き，パフォーマンス課題・評価等の先端の教育実践の研修の実施
  - ・キャリア教育を中核とした研究と授業研究報告会開催による指導力向上
  - ・中堅教員や他校の取組事例に学び，互いに切磋琢磨する教職員集団の形成
  - ・自己研鑽や情報交換の場の設定と視察受け入れや地域の人材・学生等との協働による組織の活性化
  - ・学校運営協議会による取組点検と年度途中の自己検証機会の設定

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・「自分の将来について具体的な目標を立て，その実現のために方法について考えている」(生徒アンケート)
- ・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができています」「思考ツールを活用した学びを深める授業づくりができています」「家庭学習の習慣の確立ができています」(教職員評価)
- ・「子どもは宿題を家庭で行っている」「子どもは手帳等を活用し，計画的な生活ができています」

(保護者アンケート)

各種指標結果（1回目）

- ・「自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のために方法について考えている」 73%
- ・「子どもは宿題を家庭で行っている」 81%
- ・「子どもは手帳等を活用し、計画的な生活ができている」 44%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・家庭学習として宿題に取り組む姿勢は定着している。しかし、自ら課題を見つけ、主体的にその解決のために取り組む態度は十分ではない。
- ・生徒自身が自分の将来の目標の実現に向けて、具体的な計画を立てることが十分ではない。全国学力学習状況調査においても、「学習したことは将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」という回答状況が芳しくなく、これまで以上に“この学習が将来のどんな場面で役に立つのか”を生徒がイメージできる授業実践を進めて行く必要性を感じた。
- ・学びを深める教育実践として、「本質的な問い」「対話の可能生」「思考ツールの活用」を柱に研究を進め、資質・能力の育成につなげるキャリア教育が展開できている。

分析を踏まえた取組の改善

- ・主体的に学びに向かう力や自己管理する能力の育成のために、「きらめき家庭学習」「きらめき手帳」の効果的な在り方について、学力向上部が中心となり組織的に改善を進める。
- ・“この学習が将来のどんな場面で役に立つのか”を生徒が実感できる授業の実践を徹底する。
- ・校内研究として学びを深める教育実践をより充実させ、教科の本質に迫る問いについて生徒に主体的に取り組ませると共に、対話についての可能生を追求し、目的に見合った対話方法についての研究を進める。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・落ち着いた雰囲気の中で、工夫した良い授業が行われている。教師は丁寧で分かりやすく話ができてきている。
- ・家庭学習の重要性を再認識し、PTA・学校運営協議会もできる限りの支援を行う。
- ・“この学習が将来のどんな場面で役に立つのか”を生徒がイメージできるよう、学校運営協議会やPTA実行委員会でもこの点について協議し、学校だけでなく地域・家庭と連携したキャリア教育を進めていく。

評価日 平成 29 年 8 月 21 日

評価者 学校評価部

各種指標結果（2回目）

- ・「生徒が主体的に取り組む授業づくりができている」 68%
- ・「思考ツールを活用した学びを深める授業づくりができている」 46.4%
- ・「家庭学習の習慣の確立ができている」 57%
- ・「子どもは宿題を家庭で行っている」 88%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・「学びを深める教育実践『本質的な問い』『対話の可能性』『思考ツール』の研究」をテーマに授業改善の研究を行うことによって、生徒が主体となった取り組む授業作りができた。
- ・「思考ツール」の実践本としての出版を機会にして、より効果的な活用が進んだが、学びを深めることについては検証が不十分であった。
- ・家庭学習については、学習に課題のある生徒については効果的であった。家庭学習の提出を朝の学活前にすることによって、遅刻防止にも役立った。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パフォーマンス課題・評価等の研究実践により、学びを深め、その深まりを評価することについて実践した。今後も評価指標のルーブリック作成のための研究を進めていく。</li> <li>・「思考ツール」の使用する際にICTの活用に取り組み、より迅速で分かりやすく思考を整理し可視化する研究も始めることができた。</li> <li>・家庭学習について生徒が主体的に取り組むことが十分でなく、家庭学習の内容や提出方法は再考する必要があると感じた。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年間を通じて、落ち着いた雰囲気の中で良い授業が行われていた。今後は、地域資源をより活用して学力向上に向けて研究を進めてほしい。</li> <li>・家庭学習が重要であることを、地域全体で再認識し、地域としてできる限りの支援を行いたい。</li> <li>・地域にある事業所に協力してもらい、職業観を醸成するとともに、何のために勉強するのかという意識を地域ぐるみで育てていきたい。</li> </ul>
	<p>評価日 平成 30 年 2 月 26 日</p> <p>評価者 学校評価部</p>

## (2)「豊かな心」の育成に向けて

重点目標	<p>道徳教育や人権が尊重される集団づくりを通して、豊かな心を育む教育活動を推進する</p>
具体的な取組	<p>○主体的、自主的、自律的な態度の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・充実したキャリア教育を実践しによる“志”を抱き本気で真剣に努力していける生徒の育成</li> <li>・自分の将来展望を見据え、今の自分について深く考えることのできる学習場面の設定</li> </ul> <p>○本気になって互いに高め合える生活集団と規則正しい生活集団づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の活性化と学年・学級活動や部活動等における心理的な居場所のある集団づくり</li> <li>・学校行事を通じ学級や学年、学校への帰属意識を高める工夫</li> <li>・<u>人権教育の基盤となる人間関係づくりや持続可能な地域や社会の構築について意識できる取組</u></li> <li>・<u>学校と家庭との連携による、規則正しい生活習慣の確立</u></li> <li>・<u>ルールと法の順守と支えてくれる家族や仲間等、周囲の人への感謝の気持ちをもって生活できる生徒の育成</u></li> </ul> <p>○安全な環境整備と心の健康を意識した教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間や人権学習の充実に向け指導の工夫と教材資料等の取組と活用、日常的に人権意識の高揚を図る声掛けや掲示物による環境づくり</li> <li>・副読本を活用した授業や、適切な評価による道徳の授業の活性化</li> <li>・地域の人材活用による茶道体験や和食調理体験、ゆかた登校などの伝統文化教育や地域の伝統産業現場へ体験し学ぶ生き方学習など「ほんもの」に触れる学習の充実</li> </ul> <p>○いじめ防止、不登校対策の強化、共生社会の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「報・連・相」の徹底と「学校いじめ防止基本方針」に即した具体的な取組や迅速、適切な学校組織としての対応</li> <li>・いじめアンケートやクラスマネジメントシートを活用した、いじめの予防と早期発見に向けての組織的な実践</li> </ul>

- ・不登校対策委員会やSCや関係機関との連携，様々なアンケートの活用を通してきめの細かな対応の強化
- ・よりよい社会や生活，人間関係を構築するとともに，手話や点字ユニバーサルデザイン等，障害理解や互いを尊重し違いを認め合い共に成長し合える生徒の育成
- ・生きる喜びや命を大切に，充実した学校生活を送ることができる学校体制づくり

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・「自分には良いところがあると思っている」「何か不安なことがある」(生徒アンケート)
- ・「他を思いやる指導・自分を大切にする指導・いじめを見逃さない指導ができて」「ルールを守る態度の育成ができて」「(教職員評価)
- ・「子どもは，自分を大切にした行動・仲間を大切にした行動ができて」「(保護者アンケート)

各種指標結果 (1回目)

- ・「自分には良いところがあると思っている」 74%
- ・「子どもは，自分を大切にした行動ができて」 92%
- ・「子どもは，仲間を大切にした行動ができて」 96%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・全国学力学習状況調査において，学校の規則や友だちとの約束を守っているかの質問に対して，両項目とも約95%の生徒が守ることができていると答えている。規範意識は十分育っていると思われる。しかし自分に自信がなく，自尊感情についての課題は残っている。
- ・人権についての指導を日常的に行い，いじめを見逃さない体制作りができている。また，障害のある生徒に対する理解に努め，個に応じた指導体制ができている。
- ・不登校の生徒数が，学年が上がるにつれて増える傾向にある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・日常の学級での生活や学校行事を通して，仲間作りから集団作りへと意識した学級経営を進め，授業や学校行事での達成感や役割をやり遂げる経験を積み重ねることによって自尊感情の課題の改善を図る。
- ・日常の生徒指導や人権学習等を効果的に行い，多様な価値観を認め尊重できる教育を進める。
- ・不登校の課題解決に向けて，担任に任せきりになることなく，生徒指導部長・学年主任が中心となり，SCや養護教諭と連携しながら組織的な対応を行う。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・自尊感情の課題は，学校が生徒を抱え込み過ぎることも原因である。生き方探究・チャレンジ体験等の機会を活用し，社会の厳しさ教えそれを乗り越えさせる経験も必要である。
- ・不登校の生徒が多いことを重要な課題と捉え，保護者や不登校支援センター等の関係機関の協力をもち，登校に向けた支援を強化する。
- ・いじめの問題や不登校の課題の解決のために，生徒の様子を細かく観察し，心に寄り添った指導を希望する。

評価日 平成 29 年 8 月 21 日

評価者 学校評価部

各種指標結果 (2回目)

- ・「他を思いやる指導・自分を大切にする指導・いじめを見逃さない指導ができて」 97%
- ・「ルールを守る態度の育成ができて」 98%
- ・「子どもは，自分を大切にした行動・仲間を大切にした行動ができて」 96%

自己評価	分析（成果と課題）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめアンケート、クラスマネジメントシート等を活用し、教職員間で綿密に情報交換を行い、いじめを見逃さない未然防止の活動と、生徒の心に寄り添った指導ができた。</li> <li>・家庭と連携し基本的なルールを守る指導を行ったが、ケータイ・スマホ等のSNSトラブルが多く発生し、利用の仕方への指導に課題が残った。</li> <li>・自己肯定感を高めることを目的とした学校行事や道徳の授業を通して、自分や仲間を大切にする行動に課題のある生徒が減少した。</li> </ul>		
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスマネジメント調査等を活用し、仲間づくりから集団づくりへと意識した学級経営を進めた。</li> <li>・生徒の生活背景の理解に努めるとともに、毅然とした指導を継続する。問題行動については、生徒の人格ではなくその行動を正す指導を心がけた。</li> <li>・ネットモラルについては、生徒だけでなく保護者への啓発活動も行った。生徒を取り巻くネット環境の変化を捉える研修の必要性を感じた。</li> </ul>		
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめの問題や不登校の課題の解決のために、生徒の様子を細かく観察し、個に応じた指導が必要である。特に不登校の生徒が多いことを重要課題と捉え、保護者の協力のもとその支援を強化しなければならない。</li> <li>・警察や民間会社等とも連携をとりながら、SNSトラブル防止にはより一層力を注ぐ必要がある。保護者や地域への啓発も続けて行っていく。</li> </ul>		
	評価日 平成 30 年 2 月 26 日 <table border="1" style="float: right;"> <tr> <td>評価者</td> <td>学校評価部</td> </tr> </table>	評価者	学校評価部
評価者	学校評価部		

### （3）「健やかな体」の育成に向けて

重点目標	個々の生徒に対して、思春期の特質を考慮し、社会との関わりを踏まえた人間としての生き方を見つめさせる指導の充実と環境の整備
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>○道徳教育の充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者への思いやり等の道徳性を理解し、主体的に判断し適切に行動できる態度や集団力の育成</li> <li>・道徳教育推進教師を中心とした、教育活動全般での道徳教育の実施</li> </ul> </li> <li>○規範意識の育成             <ul style="list-style-type: none"> <li>・<u>集団の一員として協力する態度を備え、ルールや法の重要性を理解して自ら行動できる生徒の育成</u></li> <li>・自他の生命への尊重</li> <li>・<u>自己信頼感や自信など自尊感情の育成</u></li> </ul> </li> <li>○保健体育の授業及び部活動の充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健体育授業の時間確保と運動環境の整備</li> <li>・部活動時間のあり方を見直し、適切な活動時間と家庭・地域で過ごす時間の確保</li> </ul> </li> <li>○学習環境の充実             <ul style="list-style-type: none"> <li>・保健室、SC 室等の心理的な“空間”の整備と、“空間”を効果的に活用した心理的変化の早期発見</li> <li>・ケガや病気を防ぎ、健康的で安全な教育環境の日常的な維持</li> <li>・施設などの安全点検と迅速な修理修繕による安全整備の実施</li> </ul> </li> </ul>

○教職員の肉体的精神的安定を図るための組織づくりの確立

- ・教職員自身が健全な心身を持つことが、教育活動の充実を図るためには不可欠であり、職場内の絆づくりを積極的に取り組める組織づくりの確立を目指す。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・「朝食を毎日食べている」「毎日よく眠れている」「夢や目標をもって生活ができている」(生徒アンケート)
- ・「規則正しい生活習慣の確立ができている」(教職員評価)
- ・「子どもはルールや決まり事を守ることができている」(保護者アンケート)

各種指標結果 (1回目)

- ・「朝食を毎日食べている」86%、「毎日よく眠れている」63%
- ・「夢や目標をもって生活ができている」54%
- ・「子どもはルールや決まり事を守ることができている」82%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・ケータイやスマホの時間を削らず、学習時間を確保しようとするために、睡眠時間が短くなっている。1日3時間以上ケータイ・スマホを使用する生徒も多く、ネット依存が深刻な課題である。
- ・学校のルールや規則は守ることができているが、家庭でのケータイの使用に関するルールについては十分ではない。
- ・部活動の時間の在り方を見直し、週1日以上のお休みを徹底し、家庭や地域で過ごす時間を確保することができた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・養護教諭が中心となり、睡眠時間の重要性を指導するとともに、健全な生活習慣の確立に向けて生徒会活動としてネット依存の課題に取り組む。
- ・PTA家庭教育学級等を活用し、ネットの問題についての啓発活動を行う。
- ・部活動に対する保護者説明会を実施し、部活動の在り方についての理解を図り、学校と家庭との協力体制を構築する。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・ネットの長時間利用による悪影響は、大きな課題である。人間関係のトラブルや生活習慣の乱れにつながらないように、ネットの利用方法についての学習には重点をおく必要がある。
- ・部活動の在り方についての保護者の価値観が多様化している。適切に休日設定するとともに、指導方法については、柔軟に対応してもらいたい。

評価日 平成 29 年 8 月 21 日

評価者 学校評価部

各種指標結果 (2回目)

- ・「規則正しい生活習慣の確立ができている」86%
- ・「子どもは学校に行くのを楽しみしている」90%

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・食事についての課題はないが、睡眠時間が不足しているという課題が解決されていない。スマホ・ケータイの利用の仕方が深く関与している。体調不良を訴え、保健室に訪問する生徒も多かった。
- ・保健体育の授業や休憩時間に、少しいことでケガをする生徒が多かった。
- ・どの学校行事に対しても、生徒がいきいきと取り組み、学校生活を楽しむ姿が多く見られた。
- ・薬物乱用防止や性教育についての啓発学習を行った。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 養護教諭や保健体育教諭が中心となり、睡眠時間の確保についての啓発を進めた。</li> <li>・ 準備運動でケガする生徒もあり、運動習慣のない生徒への対処は、小学校とも連携をして進めていく必要がある。</li> <li>・ 家庭に対して、薬物乱用防止やタバコの害等の健康についての啓発活動をこれまで以上に進めていく。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康維持に対しての意識が不十分なためにLINE等の利用時間が長くなっている。睡眠時間への悪影響は深刻な問題である。</li> <li>・ 薬物乱用や性非行についても、ケータイ・スマホが深く関係している。保護者や地域が生徒取り巻くSNSの状況をしっかり認識しておく必要がある。</li> <li>・ 学校行事に対して子どもたちが一生懸命な姿が多く見られ、いい学校であると感じている。</li> </ul>
	<p>評価日 平成 30 年 2 月 26 日</p> <p>評価者 学校評価部</p>

#### (4) 学校独自の取組

重点目標	<p>キャリア教育の推進を視点に学校行事運営や生活指導・部活動指導を進める</p>
具体的な取組	<p>○<u>道徳の時間において、22 項目のそれぞれがキャリア教育の基礎的・汎用的能力のいずれに当てはまるのかを明確にした実践</u></p> <p>○<u>総合的な学習の時間において、「人権学習」「生き方学習」「伝統文化体験学習」「探究学習」の4つの分野のそれぞれでキャリア教育の視点を持ち、自己の生き方を考える取組の実践</u></p> <p>○キャリア教育の視点に立って特別活動・生徒会活動の実践</p> <p>○キャリア教育の視点に立っての部活動指導</p>
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしている」「何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えている」「学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考える」(生徒アンケート)</li> <li>・ 「探究学習を充実させた指導・伝統文化体験学習を充実させた指導ができています」(教職員評価)</li> <li>・ 「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」(保護者アンケート)</li> </ul>
各種指標結果 (1回目)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、周囲と力を合わせて行動しようとしている」87%</li> <li>・ 「何か問題が起きたとき、次に同じような問題が起こらないようにするために、何をすればよいか考えている」85%</li> <li>・ 「学ぶことや働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考える」79%</li> <li>・ 「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」80%</li> </ul>

自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 道徳の時間の充実を図り、キャリア教育の視点に当てはめるとともに、タイムリーで効果的な指導を行うことができた。</li> <li>・ 日常の学校生活や部活動をキャリア教育の視点で見つめ直し、資質・能力の育成に努めることができた。</li> <li>・ 総合的な学習の時間の「人権学習」「生き方学習」「伝統文化体験学習」「探究学習」の4分野において、自他を大切にして多様な価値を認め、自己の生き方を考える取組が実践できた。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周囲と協力しながら自分の役割を果たすことや、問題が起きても最後までやり遂げることの大切さを学ぶことに重点をおいた学級活動や学校行事を行う。</li> <li>・ 学ぶことや働くことの意義について考える機会を意図的に設け、今学んでいることと将来のつながりを意識し、自分らしい生き方の実現のために行動できる取組を行う。</li> <li>・ 地域への関心を高め、地域の人とのつながりを実感できる伝統文化体験を行う。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今学んでいることと将来のつながりが意識できるような職場体験（2年）やしごと場訪問（1年）にするために、地域の事業所に協力を依頼していく。</li> <li>・ 伝統文化体験（着付け教室・ゆかた登校）において、地域女性会が協力しているが、今後も引き続き支援をしていく。</li> <li>・ 和食調理体験や茶道体験等の後半の伝統文化体験において、綿密に連絡を取り、充実した取組となるよう協力していく。</li> </ul>
	<p>評価日 平成 29 年 8 月 21 日</p> <p>評価者 学校評価部</p>
<p>各種指標結果（2回目）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「探究学習を充実させた指導ができている」 82%</li> <li>・ 「伝統文化体験学習を充実させた指導ができている」 86%</li> <li>・ 「子どもは体験を通して伝統文化を理解し大切にできている」 91%</li> </ul>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2年の探究学習をこれまでの個人研究からグループ研究に改善し、より対話を重視した探究活動を行った。探究のテーマ設定で課題もあったが、生徒は積極的に活動できていた。</li> <li>・ 地域人材を活用し、和食調理体験・茶道体験等を今年度も行い、充実した活動となった。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 探究活動のテーマ設定について、教職員の研修を行う必要がある。取組が形骸化している点もあり、活動の意義等を再確認していく。</li> </ul>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資質、能力の育成に重点をおき、生徒が自信をもてる分野を広げ、地域も参画できるるキャリア教育を推進すべきである。</li> <li>・ 地域にある事業所や地域人材をより有効活用して、本校校区の特色を生かした本物にふれる機会をより充実させてほしい。</li> <li>・ 地域は学校教育に対して積極的に協力しようとしている。小学校とも連携して学校運営協議会（コミュニティ・スクール）を活性化させてもらいたい。</li> </ul>
	<p>評価日 平成 30 年 2 月 26 日</p> <p>評価者 学校評価部</p>